

03.06.09

岡田 操

寿都町・美しい川作り研究 【川グループ】

1. コンセプトづくり

フローに従い、グループ会員、寿都町民、研究会員と議論し創りあげる。

2. 現状調査【川グループ】

1). 河川利用調査

朱太川沿川利用調査は、産業的利用（水産業・その他）、レジャー的利用（カヌー・ボート・釣り・キャンプなど）の現状を把握するため、7～8月の夏季に実施する。

調査方法は海岸線歩きながら目視観察し、併せて、付近住民や町民に対して河川利用やその変化等について聞き取りする。

また、役場を中心に既存資料を収集し過去からの河川利用の経緯を取りまとめる。

2). 河川環境調査

河川環境調査は、利用調査と同じ7～8月の夏季に実施する。調査方法は河川沿いを歩きながら目視観察するライントランセクト法とする。

調査項目は自然度調査として現存動植物の生息状況、汚染状況調査として汚染状況及び汚染物質・汚染源、更に必要があれば水質の測定を行なう。併せて、付近住民や町民に対する聞き取りを実施し、河川環境に関する情報を集約する。

3). 河川景観の調査

河川景観調査は、利用調査と同じ7～8月の夏季に実施する。調査方法は河川沿いを歩きながら目視観察やカメラ・ビデオ撮影を行なう。河川景観は、河岸及び河川堤防上から望める山岳、丘陵、河畔、市街地とし、特徴的な景観に区分する。

4). 過年度調査の文献・資料調査

寿都町役場、北海道、開発局等の機関から、河川改修の履歴・災害の発生経緯・それらに伴う河道の変遷、更に今後の変化を予測するために改修計画の資料を収集し、河川の変化の履歴及び計画を取りまとめる。

町内または町役場に保存された、過去の写真から、河川の変化を取りまとめる。

3. 現状調査の取りまとめ

河川の原型（明治年間に作成された五万分の一地形図）から現在までの河川の履歴（形状・産業利用・汚染・景観）を年代順に取りまとめる。

河川の特性を鑑みて、町民における河川の位置付け・安全な利用などについて提案する。